「母の月」から

花のある暮らしへ

——地元で育つ「高知の花」で

with flowers

新型コロナウィルス感染症の拡大は、私たちの日常を大きく変えました。

緊急事態宣言、外出自粛、在宅勤務などこれまで体験したことのない事態が相次いで起こり、多くの人が不安を抱えて日々を過ごしています。

このような中、花の需要が集中する「母の日」の３密を避けるため、日本花き振興協議会は今年の５月を「母の月」と定めました。

こういう時だからこそ、
いつもありがとう、元気に過ごして欲しい ――そうした“人を想う気持ち”を花に託したい。

私たちも、この機会に花を通じたコミュニケーションが広がるよう、ＪＡ高知県の広報誌「こうぐり」で連載中の「花のある暮らし」をまとめて見ていただけるようにしました。ご紹介できるのは現在までの掲載分となり、「高知の花」すべてご紹介することはできませんが、花の美しさと生産者の想いを感じ取っていただければ幸いです。

令和２年5月
ＪＡグループ高知・ＪＡ高知県

花のある暮らし 1

【高知地区】オリエンタルユリ

部屋を華やかに彩る主役にぴったりのユリ

高知県は、全国第2位のユリの生産県。オリエンタルユリをはじめ、テッポウユリなどを冬春季に出荷しています。

春野支所管内では、4人の生産者がユリなどを約1.6ヘクタールで栽培しています。オリエンタルユリの栽培品種は、「プレミアムブロンド」や「セーラ」など約20種類。中輪で、白・ピンクが主流です。8月に球根を定植し、11月から翌年7月まで関東・関西方面を中心に出荷しています。

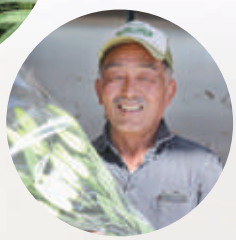
5輪咲きで四方に堂々と咲き、優雅さと豪華さを持つオリエンタルユリ。豊かな香りと花持ちの良さが特長で、アレンジメントや花束の主役にぴったり。他の花との相性も良いですが、ユリだけでも存在感があり、部屋を華やかにしてくれます。

40アールのハウスでユリを栽培する中山英之さんは、花き栽培40年目のベテラン生産者。出荷時期を分散させるため、5～7種類のユリを同じハウスで栽培しています。

中山さんのこだわりは、土づくりと温度管理。「こまめに温度管理と施肥をすることで発色が良い花ができる。優品率を上げたい」と力を入れています。

県外市場で開催される花の展示会には積極的に参加し、市場関係者や生産者との情報共有を図っている中山さん。「花きの生産者を増やし、産地として競争力をつけたい」と目標を話します。

蕾の状態で出荷されるユリ



生産者　中山 英之さん

【生け花のポイント】

正月は一年の始まりで、五穀豊穣と安全を祈るお祝いの月です。その年の新しい神様「年神様」をお迎えするのにふさわしい、高貴で華やかな「ユリ」と神が宿る木とされてきた「常緑の松」を使って生けました。また、金銀の水引で寿ぎを表現しました。

花のある暮らし 2

［高西地区］ 利休草

奥ゆかしく どんな花とも相性抜群

「奥ゆかしさ」「清廉」という花言葉を持つ利休草。その名称からも想像されるように、茶花としても使用されます。和洋どちらにも合うため、幅広いシーンで使われ人気を集めています。

中国から渡来し、百部（ビャクブ）とも呼ばれる利休草は、つる性の多年草。大きな特徴は、しなやかで繊細な茎の動き。多様なアレンジが可能で、切り花としても持ちが良く、市場では30～80㎝のサイズで流通しています。瑞々しいグリーンの葉が2方向から3方向へ広がり、結婚式場の飾り付けやブーケなどにぴったり。ボリュームと柔らかな優しさを演出します。生け花や花かごなどでは、他の花を際立たせる名脇役です。

「肥培管理に特に注意を払っている」。四万十支所管内の生産者、武山寿治さんは、利休草を細くしなやかな茎に仕上げる為に試行錯誤を重ねてきました。先端がつる状に生長できるように支えを垂らし、つるの伸長を誘導。冬場はハウス内の温度を15～18℃に保ち、周年出荷を目指しています。

県内の利休草は、関東・関西方面へ出荷。観葉植物がブームになったこともあり、ここ4～5年で市場ニーズは伸びるなど人気を集めています。

アレンジ力抜群の利休草

生産者　武山 寿治さん

【生け花のポイント】

まだ寒さの続く2月。淡雪を表現した器に、暖炉から立ち上る火のようにあたたかみを持つ赤いグロリオサを置き、周りに利休草をあしらいました。グロリオサの花言葉は「栄光」「勇敢」「燃える情熱」。その花をしっかり引き立てる奥ゆかしい利休草は、なくてはならない花です。

［いけばな］小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 3

［安芸地区］ピュアブルー

ブライダルシーンで活躍 幸せを呼ぶ青い花

水色の5枚の花びらが可憐なブルースター（オキシペタラム）。花言葉は、〝信じあう心〟〝幸福な愛〟。結婚式に、花嫁が青色のものを身に着けると幸せになるというヨーロッパの言い伝えから、ブライダルシーンで人気を集めています。

一方、ブルースターは萎れやすい、茎が曲がりやすい……という声が。そこで、安芸郡芸西村の生産者が新品種の育成に取り組み、芯が太くしっかりとしたオリジナル品種「ピュアブルー」が誕生しました。

平成23年、ドイツで開かれた国際園芸見本市「IPM ESSEN2011」の切り花部門では最優秀賞を受賞。品質の高さやオリジナル性が高く評価され、芸西村が世界に誇れる花となりました。

湿式輸送・縦箱・空輸を全国に先駆けて開始。10月～5月の出荷量は、全国流通の9割を占めています。

芸西支部園芸部研究会花卉部ブルースター部会は、生産者7人が約3ヘクタールでピュアブルーを栽培。吉永幸司部会長は、「ハウス内に風が入り込まないよう、小さな隙間にも注意しています」と、ハウス内の徹底した管理に気を配ります。定期的に開く現地検討会では、全員のハウスを巡り、意見を交わします。「将来的にはいろんな品種の育成をしたい」。吉永さんたちの夢は広がります。

星のように咲くブルーの花びら

生産者　吉永 幸司さん

【生け花のポイント】

暖かい空気が流れ込み始める3月。小さくても存在感のある星形の青い花「ピュアブルー」を主役に、春らしさを感じる明るい黄色の「オンシジュウム」と「タマシダ」を添えました。
ピュアブルーは、茎を切ると白い樹液が出ます。この樹液が水揚げを阻害するため、切り戻し後は切り口をブラシやたわし等で樹液が出なくなるまで擦って洗いましょう。

［いけばな］小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 4

[仁淀川地区・土佐市支所] ダリア

艶やかで多彩 威風堂々な存在感

一輪あるだけでパッと華やぎ、目を引くダリア。手のひらサイズの可憐なものから、ゴージャスで堂々とした大輪もあり、花色も単色、複色と多種多様です。

メキシコ原産のダリアは、江戸時代にオランダ船が日本に持ち込んだといわれています。園芸品種として長く人気がありましたが、意外にも切花として注目を集め始めたのはここ10年ほど。黒紅色が印象的な品種「黒蝶」の登場により、今やイベントや結婚式、フラワーアレンジメントなどで欠かせない花となりました。

花が6～7分咲いた状態で出荷するため、選別や荷造り作業、輸送も繊細です。「花びらの数が多く、小さな傷が一つでもあると商品価値がなくなるので神経を使います」と話すのは、土佐市支所管内の生産者・野田真史さん。品質を上げるため、温湿度や水やりの管理、防虫など細やかな気配りをしています。

野田さんは市場や花屋、消費者の動向を見極め、中輪サイズを15品種ほど栽培。品種が多く、毎年変化するトレンドにも対応しています。「満開に咲いた時の形や大きさ、ボリューム感をぜひ堪能してほしい」と、ダリアの魅力をたくさんの人に伝えています。

多種多様なダリア

生産者　野田 真史さん

【生け花のポイント】

1本でも存在感のあるダリア。美しい花輪は、花束や生け花をとても豪華に見せてくれます。今回は、数種類のダリアのみで生けました。ダリアを挿している網は、太目のアルミワイヤーを編んだもの。簡単に作れますし、金網などでも代用可能です。　[いけばな] 小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 5

［幡多地区・大方支所］カスミソウ

主役も脇役も——自由自在に演出を

カスミソウは、小さな白い花が霞がかかったようにたくさん咲くことから名づけられました。控えめながら、束にすることでボリューム感やふんわりとした空間を演出でき、添えるだけで他の花を引き立てる名脇役でもあります。

高知県では昭和24年頃から栽培されていた記録があり、半世紀以上の長い歴史があります。県内主産地の大方支所管内では、大方花卉園芸部カスミソウ部会が約6ヘクタールのハウスで栽培しています。

同部会が出荷しているのは、花持ちがよく茎がしっかりした「アルタイル」と、大きい花弁が特徴の「ベールスター」の2品種です。近年は品種改良が進み、八重咲きで花弁が大きい品種が主流。そのため、ベールスター系の新品種を試作している部員もいます。部会が気を付けているのは、市場に並んだ時に最も美しく開花すること。寒い時期は8分咲き、暑い時期は3分咲きで収穫し、湿式のバケットやエコゼリーを使って鮮度を保ちます。出荷時期に合せた細かな調整や鮮度保持の取り組みは、市場から高い評価を得ています。

40アールで栽培する部会長の野村信夫さん、重子さん夫妻は「花が軽いので収穫は楽ですが、絡み合った枝を折らないように丁寧に収穫しています」と、笑顔で話します。

生産者　野村 信夫・重子さん

【生け花のポイント】

5月の母の日に合わせて、赤いカーネーションを合わせました。最初にカスミソウを器にさして花留めとし、カーネーションをさしてからカスミソウを引き出してボリュームを出します。母の日に感謝の気持ちを込めて、プレゼントしてみましょう。

［いけばな］小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 6

【香美地区】アジサイ

「七変化」と呼ばれる水も滴る魅惑の花

梅雨時期の道沿いで何気なく見かけるアジサイ。雨に濡れることで一層の輝きを放ち、土壌の酸性度（pH）によって花の色を変えることから「七変化」などの別名もある不思議な花です。

花色が変化するのは、アジサイに含まれている色素・アントシアニンが関係しています。土壌が酸性だと青系、アルカリ性だと赤系の花を咲かせ、色によって花言葉も変わります。最近では、小さな花が集まって咲く姿から「家族団欒」という花言葉も広まり、母の日の贈り物や結婚式のブーケなどにもよく使われます。

香美地区で主に出荷されるのは、ブライダルシーンでも活躍する切り花用の白アジサイ。他にも、色・形が様々な品種を20人の生産者が計2ヘクタールほどで栽培。物部集出荷場から主に県外へ、6月末まで出荷しています。

「そのまま生けるのも素敵ですし、色付けを楽しむために白を選ぶ方もいますよ」と話す、生産者の西尾文彰さん。2.5アールで栽培し、今年で約8年目になります。白アジサイの花言葉は「寛容」。文彰さんは、言葉通り優しく広い心で見守りながら、日々管理しています。

生産者　西尾 文彰さん

【生け花のポイント】

今回は「雨」をテーマに、傘のような形のシペラス（カヤツリグサ）を合わせ、長靴のガラス花器に生けてみました。アジサイは水揚げが悪いので、水切りを行った後、ミョウバンを切り口に擦り込むか水揚げ促進剤を使います。

［いけばな］小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 7

［土長地区］トルコギキョウ

多彩な品種が魅力のボリュームのある豪華な花形

すらっと伸びた茎の先に、白・紫・黄色・ピンク・ブルーなど様々な色の花を咲かせるトルコギキョウ。一重咲き、八重咲き、一本の茎にたくさんの花を咲かせるスプレー咲きなど、咲き方によっても楽しめます。花持ちが良く、一年を通して流通しています。

花言葉は、「すがすがしい美しさ」「優美」「希望」「永遠の愛」。ボリュームがあり豪華な花形に、淡い緑やピンクの花を添えると、鮮やかすぎず上品な印象になり結婚式のブーケとしても人気です。

「芽かきや仕立て、開花を揃えるための摘蕾作業など、しっかりと手を入れることが大事」と、出荷まで管理に気を配る高橋定章さんは、土佐町溜井地区で、20～30種類のトルコギキョウ約2万本を6アールで栽培しています。中山間の気候を生かし、7月から10月にかけて近畿方面や県内市場をメインに出荷。「良い人たちとの出会いで花を作れゆう。しっかり作って、日持ちする花を届けたい」と、市場や県内他産地との交流を積極的に行い、安定供給に努めています。

生産者　高橋 定章さん

【生け花のポイント】

「ギボウシ」と「シダ」を使い、ガラスのカゴの花器で涼感を演出。
「ギボウシ」は紐で束ねると扱いやすくなります。ガラスで茎が見える場合は葉を入れて隠します。茎は短くすることで水揚げが良くなり、長持ちします。

［いけばな］小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 8

【幡多地区・大正支所】スプレーマム

色や咲き方が多様で魅了
欧米生まれの花

アメリカで育種され、ヨーロッパで改良されて誕生したスプレーマム。語尾の「マム」とは菊のことですが、日本各地で栽培されている菊とは異なります。1本の茎が放射状に枝分かれして複数の花を咲かせ、咲き方も一重咲きや八重咲き、ポンポン咲きなど変化に富んでいます。花色は明るく豊富で、欧米ではウェディングブーケにも人気です。夏場でも花瓶に挿して定期的に水を換えれば、ひと月は楽しむことができます。

日本では昭和50年頃に普及し、県内主産地の四万十町では平成初期に栽培が始まり、最盛期には11戸で1億円近くまで販売実績を伸ばしました。現在は、大正支所スプレーマム部会の5戸がハウス2ヘクタールで約40品種を栽培しています。

スプレーマムは植え付けから90日前後で収穫できるため、ほぼ通年出荷できます。部会は、需要が多い物日に合わせて品種ごとに逆算して植え付けていますが、地球温暖化の影響で通年出荷は年々難しくなっています。

部会長の太田宗隆さんは、「高温になると花の形が崩れてしまう。部会はスプリンクラーを導入したり、寒冷紗で遮光管理をしたり、高温に強い品種を選んで対策を講じています」。温度管理を徹底し、高い秀品率を維持する努力が続いています。

生産者　太田 宗隆さん

【生け花のポイント】

五節句のひとつ、9月9日の「重陽の節句」にちなんで菊を重箱に生けてみました。重箱は、綺麗なお菓子の缶や箱でも代用可能。底にオアシスや剣山などを入れると生けやすくなります。

[いけばな] 小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 9

[仁淀川地区・土佐市支所] ソリダスター

幸せなオーラをまとう黄色の小花

見る人に元気を与えてくれる、明るい黄色の小さな花を無数につけて咲くソリダスター。栽培が始まったのは約30年前。当時、メインで栽培していた「孔雀アスター」と同じほ場で栽培できたため、土佐市北原地区で栽培が広がりました。栽培方法の確立には苦労も多く、種から育苗してみたり挿し木で増やしてみたり……部会で知恵を出し合いました。また、最初は販売面でも苦労しましたが、フラワーアレンジメントが流行りはじめたことがきっかけで、「添え花」の需要が高まり、白のカスミソウ、黄色のソリダスターとして人気を集めました。

「ソリダスターだけで、まん丸の花束にしてもかわいいよ」――栽培当初から続ける生産者の一人、玉木敏幸さん。土佐市北原地区では9人で2.7ヘクタールを栽培しています。「作りやすい花ですが、雨にあたると病気がきて、夏もハウスの屋根をはがせない」。ハウスの中で花と共に、暑さに耐えながら作業をしています。

現在は、選抜種を「ゴールドエンゼル」の名前でブランド化。はっきりとした黄色とふわっと広がるスプレー状のソリダスターを出荷しています。出荷はほとんど県外ですが北原地区の直販所では見かけることができます。ぜひお立ち寄りください。

生産者　玉木敏幸さん

【生け花のポイント】

暑い夏に咲く、ヒマワリと一緒に生けました。ソリダスターは、わき枝をのけて結わえ、束をいくつか作ります。先にソリダスターを花瓶に入れることで、枝が詰まりヒマワリが挿しやすくなります。

[いけばな]
小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 10

【土長地区】ノーブル

上品なミントグリーンの高知生まれの八重咲きのユリ

高知県のれいほく地区のみでしか生産されていないノーブル。八重咲きのユリで、美しいミントグリーンの花色は洗練された印象を与えます。花は、コロンとした丸い形を帯び触ると少し固め。通常のユリとは違い、外側の花弁が少し広がる程度でほとんど開花せず長く楽しめます。

花言葉は「純潔」「無垢」「威厳」。どの花とも相性が良く、冠婚葬祭を問わずブーケやアレンジメントなど様々なシーンで利用されます。花粉がないため、洋服が汚れる心配もありません。

「他にない花だからこそ、栽培するのがおもしろい」と話す、生産者の藤原厚志さん。

20年程前にスカシユリを栽培中、突然変異体を発見。その姿から、「高貴」の意味を持つ「ノーブル」と名付けました。土壌のウイルスに気を付け、球根をしっかり養成しながら栽培に取り組んでいます。

当初は、普通のユリと違ったため市場の反応が悪かったものの、花屋の口コミから人気になり、今では全国各地に出荷しています。その後も、「ノーブルSP」、「アイカ」、「ミミテール」などの新品種が誕生。「また新種を見つけたら、大切に育てていきたい」と、藤原さんは笑顔で話します。

生産者　藤原 厚志さん

【生け花のポイント】

名のごとく、高貴な雰囲気を醸し出すノーブル。コニファー（ブルーアイス）を使って、グリーンとの濃淡を出しました。コニファーを先に挿して花留めにしてから、ノーブルを生けると安定します。

［いけばな］
小原流 高知支部　支部長　　山中 眞知子

花のある暮らし 11

[香美地区] デルフィニウム

〝幸せをふりまく〟優美で繊細な佇まい

「清明」「高貴」の花言葉通り、優美な魅力を持つデルフィニウム。名前は、ギリシャ語でイルカを意味する「delphis」が語源で、つぼみの形がイルカに似ていることにちなみます。和名の「大飛燕草（オオヒエンソウ）」は、花の形がツバメに似ていることから付けられました。品種は約200種類以上。濃淡の違う青や紫、ピンクや白など花色も様々で、一般的な一重咲や豪華な八重咲きのものなどバラエティに富んでいます。特徴的な青色は、花嫁が持つと幸せになれるおまじない「サムシングブルー」のブーケとしても活躍。澄みきった青い花を穂状にたくさん咲かせる姿から「幸せをふりまく」とも言われ、プレゼントにもピッタリです。

デルフィニウムの原産地はヨーロッパ。自生するのは山間の涼しい場所で、高温多湿に弱く繊細です。香美地区では、野市町・吉川町で4人が栽培。「高温期の栽培は特に難しいため、県内の農家はごく僅か。それでも産地を守るために努力をしていきたい」と話す、香南市野市町の生産者・武内和雄さん。花の痛み・首だれなどが起こらないよう工夫をし、出荷には鮮度と品質保持のために「花き湿式輸送パック」を使用。今年11月からは海外への出荷も始まりました。

最近は、オリジナルの色を開発したり、1人ひとりが情熱とこだわりを持って「幸せをふりまく」ように消費者の元へ届けています。

生産者　武内 和雄さん

【生け花のポイント】

マトリカリア、リンドウ、ユーカリ、ソング・オブ・インディオと一緒に生けました。フレームは、白い箱を切り抜いてマスキングテープを貼ることで作れます。後ろに小さなカップなどを置いて生けてみましょう。

[いけばな] 小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 12

［安芸地区］千両

お正月を彩る縁起の良い赤い実

日本のお正月飾りに欠かせない千両。花が少ない冬場、真っ赤な実が暮らしに彩りを添えてくれます。約30年前、吉良川町西山台地で栽培しているスイカ、サツマイモなどと競合せず立地条件に適する作物を探す中、千両に着目し栽培が始まりました。現在、安芸地区吉良川千両部会では、生産者9人が約6ヘクタールで栽培しています。部会では、定期的に出荷販売について検討し、品質のバラつきを無くすため等階級の見直しや、目慣らし会も積極的に開き、常に市場のニーズに応えてきました。その努力が実り、今では全国でも有数の千両産地へと成長しました。今年の出荷見込は約45万本（4500ケース）。東京、名古屋、関西に出荷し、クリスマス終わりの12月26日以降、全国の花屋やスーパーが一気にお正月モードとなります。

千両は、春先に剪定、消毒などを経て11月中旬頃から収穫と選別作業が始まります。ハウスで60アールを栽培する町田律さんの倉庫でも、作業員の皆さんが集まり選別作業に大忙し。年末が近づくと見られる恒例の風景です。「1年かけて丹精込めて育てた千両。家に飾って、よい年を迎えてほしい」。町田さんは新年への想いを寄せます。

生産者　町田 律さん

【生け花のポイント】
松の木の枝に千両をあしらい、クリスマスリースをイメージして生けました。中央にある「仏手柑（ぶしゅかん）」は柑橘類の一種で、仏さまが合掌した手のような形をした縁起のよい果実。観賞用として、お正月飾りや生け花などにも使われます。

［いけばな］小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 13

【香美地区】スターチス

変わらぬ姿と心で アートとしても楽しめる花

生産者　黒瀬 隆司さん

主流の紫をはじめ、ピンク・青・黄・白などたくさんの色が楽しめるスターチス。分枝した枝に小花を多数つけ、可愛らしくも豪華に咲き誇ります。らっぱ状で花のように見える部分は萼（がく）で、その中で控えめに咲く、小さな白色の花が花冠です。

スターチスは花もちがとても良く、萼片が長期間色あせずに残ることも魅力のひとつで、花言葉は、「変わらぬ心」「途絶えぬ記憶」。11月下旬から4月中・下旬頃まで県外向けに出荷し、切り花やドライフラワー、プリザーブドフラワーなどアートとしても楽しまれています。

父親の後を継ぎ就農した黒瀬隆司さん。たくさんの種類の花きを育てるなか、香美地区で唯一スターチスを栽培している生産者です。

「花を見て怒ったりする人はそうそういないですよね。もらった人が幸せな気持ちになれる、それがやりがいなんです」と笑顔で話し、就農当時から、花言葉通りの「変わらぬ心」で花々を見守り続けています。

【生け花のポイント】

ヒカゲノカズラは神聖な植物で、お正月飾りにぴったり。皇室の引き出物に利用されているおめでたい菓子「金平糖」に見立て、スターチスをワイヤーで束ね、オアシスに挿しました。アクセントには、サンキライ（赤い実）をあしらっています。

［いけばな］小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 14

［高知地区］テッポウユリ

真っ白で奥ゆかしい佇まい 日本固有のユリ

「奥行きがあって立体的な花が魅力のテッポウユリ。花弁が落ちないことから縁起の良い花として売り出したい。グリーンと相性が良く、花嫁のブーケに使うことを提案しています」と、アイデアが尽きない生産者の岡﨑賢司さん。自身の2人の娘さんも、テッポウユリを使ったブーケを持って挙式をしました。また、3年前から始まった「全国高校生花いけバトル」の県大会に出場する高校生に高知のユリの良さを伝えるなど、ユリのファンづくりにも力を入れています。

岡﨑さんが組合長を務める土佐市花卉農業協同組合は60年の歴史を持ちます。11名の生産者が3ヘクタールで、主にユリを栽培。「目慣らし会」を積極的に開き、等階級を厳格に守ることで、品質を高めています。

「単価に見合う花を作ることで信頼関係を築いている」。岡﨑さんは、花の需要期に出荷できるよう、18万球の球根を慎重に栽培しています。花、茎の硬さ、葉色を長持ちさせるために従来よりも疎植にして株間を広げて栽培したり、出荷では花を上向きにセロファンで包み、ボリュームのある姿が保てるような工夫をしています。市場や仲買人、生花店それぞれからのニーズに対する迅速な対応が、日本一のテッポウユリの産地の名を高めることにも繋がっています。

生産者　岡﨑 賢司さん

【生け花のポイント】

まだ寒い2月、雪景色の中に天使（テッポウユリ）が舞い降りてきたイメージで生けました。氷室杉を地面、白妙菊を雪の結晶、かすみ草を雪に見立てています。

［いけばな］小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 15

［土長地区］スタービューティー

凛とした美しさが人気の高知県生まれのヒメユリ

生産者　沢田 順一さん

県内の山間部に自生している「トサヒメユリ」を改良して誕生した高知県独自の品種、スタービューティー。花弁に斑点がなく、濃いオレンジの花色が特長。初夏の花として人気で、小ぶりながら凛とした美しさがあり、茶花などによく利用されています。

スタービューティーの栽培は、沢田順一さんも所属するれいほく花き部会で10数年前から取り組み始めました。当時、生産者は10戸ほどいましたが、球根の養成などが難しく徐々に生産者が減少。現在は、沢田さんが高知県で唯一の生産者です。スタービューティーは、播種から出荷するまでに約3年かかります。球根の充実で花の良し悪しが決まるため、水管理をしながらしっかりとしたサイズに養成することが大切です。

「純和風な見た目で、他にはない花。色も華やかで存在感があります」と、沢田さんはスタービューティーへの愛着と魅力を話します。

【 生け花のポイント 】

楚々としたスタービューティー。茶花の時は1輪挿しでも使え、早春の雰囲気を感じさせてくれます。今回は、珊瑚水木、クジャクヒバ、ヒューケラと一緒に生けました。

［いけばな］小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

花のある暮らし 16

［仁淀川地区］アセビ

小さな葉に未来を託して

スズランのような小さなつぼ型の花を房状にたくさんつけ、見る人の目を楽しませてくれるアセビ。日本や中国などに自生しており、開花期間は2～4月。花の色は、白、ピンク、赤など斑入りの品種もあります。万葉集にも登場する「馬酔木（あせび）」は、古くから親しまれてきた花木で日本庭園や住宅の庭先でもよく見かけます。

ＪＡは、アセビを枝物（切枝）として、昨年10月から出荷を始めました。過去にも高知県内の山間部で何度か出荷を試みたことがあったようですが、当時は需要があまりなく、実現しませんでした。

しかし、近年フラワーアレンジメントに使われるなど、アセビの切枝の需要が伸びてきたことで吾北支所エリアで再挑戦。県とＪＡが園芸品販路開拓拡大強化事業として、関東の花き卸売市場（株）フラワーオークションジャパンに業務委託し、国内販売だけではなく海外への販路拡大にも取り組んでいます。

吾北支所営農経済課の筒井秀和課長は「新たな資源として期待している。山間部の貴重な収入につながればうれしい」と、アセビのこれからに期待を寄せています。

【生け花のポイント】

春の訪れを感じさせてくれるタケノコを用いて、里山の風景を思い浮かべながら生けました。アセビの枝を中心に置き、花はいくつかの枝をまとめてくくり、生けています。

［いけばな］小原流 高知支部　支部長　山中 眞知子

虫や傷んだ葉がないか確認の作業をしています

出荷の手順について確認する関係者ら

葉は3～7mmと小さく、枝先にまとまって付くのが特徴

花のある暮らし 番外編

[仁淀川地区] 花桃

花桃をきっかけに地域の集いの場へ

仁淀川流域の急峻な斜面に集落が点在する仁淀川町には、上久喜・引地橋・寺村地区など花桃の名所がたくさんあります。花桃は、花を観賞するために改良されたモモの一種。サクラの花の咲く時期に前後して開花の最盛期を迎え、赤・白・ピンクの華やかな色に染まり、春の訪れを告げます。

仁淀川町別枝の道芝地区も、知る人ぞ知る花桃の里です。10年ほど前、栽培をやめた茶畑が荒れることを心配した川崎満子さん(93)が、1人で茶の木から花桃に植え替え始めました。川崎さんは、ゼンマイを育てて30年の現役農家でもありながら、「花が好き」という思いで毎年地道に花桃を植え続け、今では300本ほどになりました。

「人を集めて、地域を盛り上げたい」と、公園づくりを進めている道芝地区。昨年完成した東屋には地区外も含め約30人の住民が集まり、満開の花桃を眺めながら交流を楽しみました。

「最初に植えた時は、こんな風に人が集まるとは考えていなかったけれど、今では花桃を見にたくさんの人が訪れてくれるのが嬉しい」と、川崎さん。今年は温暖だったこともあり、3月末頃に満開を迎えました。例年は4月初めが見頃だそうです。来年はぜひ、花桃の里を訪れてみてください。

写真提供：高橋 正徳(LIFE is PHOTO)

地元で育つ「高知の花」

Others

孔雀アスター

グロリオサ

リヤトリス

ストック

ひまわり

LAハイブリッドリリー

マトリカリア

グラジオラス

アスター

しゃくやく

紅アオイ

シンビジウム

なでしこ

「母の月」から

花のある暮らしへ

―― 地元で育つ「高知の花」で

発行：令和２年５月
ＪＡグループ高知・ＪＡ高知県

いけばな：小原流高知支部 支部長　山中 眞知子